

だから“日中韓”

絆の再発見

日本と中国と韓国——。東アジアの三か国は不幸な歴史を乗り越えながら、この半世紀、友好を深めてきました。しかし、最近領土や歴史にまつわる溝が広がり、ギクシャクした政治関係ばかりが浮き上がります。「反中」「嫌韓」「反日」ムードが国民の間にも大きく横たわるようになりました。

さて、こんな状態を続けてよいのでしょうか。漢字文明に代表されるように、この三国は地理的・歴史的・文化的に切っても切れない関係にあります。環境問題や少子高齢化など、国境を超えた深刻な課題にも英知を寄せ合わなければならない時です。欧米中心に進んできたグローバリズムのひずみにも、実は三国を中心にした東洋的知恵が活用できるのではないのでしょうか。

こんなときだからこそ「日中韓の絆」を再発見し、21世紀の世界における役割を見出す——。これからを担う若い世代とともに、そんな道を探りたいと思います。

2014年11月から開く2~3か月に1度の連続セミナー「だから“日中韓”——絆の再発見」は、そんな企画です。さまざまな伝統文化や食などの生活文化、スポーツ、若者をつなぐサブカルチャー、そして共通の悩みや互いの深刻な摩擦も、三国からゲストを迎えながら一緒に考えていきましょう。

また、両国の協力団体とも提携しつつ、時に大型シンポジウムや中韓での催しも企画したいと思います。皆さま、ふるってご参加ください。特に高校・大学生は大歓迎です。

若宮 啓文
石川 好

第1回

2014年11月25日(火) 17:00~20:00

会場: 国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

舞台とビデオで拓く未来

長谷川 孝治 日中韓国際共同制作作品演劇「祝/言」監督
日中韓三国協力事務局主催日中韓ビデオコンテストの参加学生

【ご挨拶】
孔 魯明 東アジア財団理事長、前韓国外務部長官、元駐日大使

第2回

2015年1月16日(金) 18:00~20:00

会場: 国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

競い、高め合うライバル

岡田 武史 元サッカー日本代表監督、前中国スーパーリーグ杭州绿城監督
池田 誠剛 元サッカー韓国代表フィジカルコーチ(予定)
韓国人元Jリーガー(調整中)



主催: (公財)日本国際交流センター(JCIE)
協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財)MRA/ハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学
その他、協賛企業のご協力をいただいています。

詳細・お申し込み方法は裏面をご覧ください。

2014年11月25日(火) 17:00~20:00

長谷川 孝治

日中韓国際共同制作作品演劇「祝/言」監督

日中韓三国協力事務局主催日中韓ビデオ
コンテストの参加学生

舞台とビデオで拓く未来

第1回は、長谷川孝治氏と日中韓三国協力事務局主催「Trilateral New Wave」と題した日中韓ビデオコンテストの参加学生に、日中韓の共同制作活動について映像を紹介してもらいながら、お話を伺います。日本、中国、韓国がひとつになってどのように現在を語り合い、共に創り上げた作品を通じてどんな未来を語ろうとしたのか、その未来の絆の形について考えていきます。

日中韓三国協力事務局主催 「Trilateral New Wave」

日中韓の平和と繁栄を促進するために三国政府の協定により2011年9月に設立された日中韓三国協力事務局(Trilateral Cooperation Secretariat)が、三国の学生の共同作品作りを通じて、彼らの友情と相互理解を深めるために開催したコンテスト。

【上映作品】

「Celebrated Chop Waltz」
DRAW (明治学院大学、東京造形大学)

「Change the World by Changing Yourself」
Cooperation in Asia(CIA) (早稲田大学)

「Be Gentleman」
Team Gentleman (早稲田大学)



日中韓国際共同制作作品 演劇「祝/言」

2013年に青森県立美術館と国際交流基金との共催により、日中韓の共同制作で創り上げた演劇作品。長谷川孝治氏を中心に、日中韓の俳優、舞踊家、伝統音楽の演奏者が出演し、3か国8劇場で上演された。東日本大震災を背景に、東北に住む三国の人々が互いに傷を認め合い、その痛みをどのようにともに克服していくかを模索する作品。

長谷川 孝治 青森県立美術館舞台芸術総監督

1956年青森市生まれ。劇作家・演出家。1978年劇団「弘前劇場」を結成。2006年から青森県立美術館舞台芸術総監督。1990年青森県文化奨励賞、2001年文部省地域文化功労賞など、数々の賞を受賞。演劇作品のほか、現在は、大林宣彦監督の映画作品「この空の花 長岡花火物語」等の原作を担当。著書に「戯曲集弘前劇場の二つの場所」(太田出版)「さまよえる演劇人」(無明舎出版)他多数。



2015年1月16日(金) 18:00~20:00

競い、高め合うライバル

岡田 武史

元サッカー日本代表監督
前中国スーパーリーグ杭州绿城監督

池田 誠剛(予定)

元サッカー韓国代表フィジカルコーチ

韓国人元Jリーガー(調整中)

第2回には、岡田武史元日本代表監督、池田誠剛元韓国代表コーチ(予定)をお招きし、サッカーを通じてみる日中韓の関係についてお話をお伺いします。岡田氏は、2012年より2シーズンにわたり中国スーパーリーグ所属の杭州绿城で指揮を執り、現在も選手の育成に携わっています。一方池田氏は、2011年、2013年と韓国代表チームに招聘され、フィジカルコーチを務めました。2012年には岡田氏のもとで杭州绿城のコーチも担っています。また、Jリーグでも活躍した韓国人選手の登壇も調整中です。それぞれの現場での経験談から、ライバルとして、またときには仲間として競い、高め合う三国の絆を再発見します。

【第1回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg01/

11月4日(月)より申込受付開始

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)

入場無料

【会場】国際文化会館(東京都港区六本木5-11-16)



だから“日中韓”

絆の再発見

日本と中国と韓国——。東アジアの三か国は不幸な歴史を乗り越えながら、この半世紀、友好を深めてきました。しかし、最近領土や歴史にまつわる溝が広がり、ギクシャクした政治関係ばかりが浮き上がります。「反中」「嫌韓」「反日」ムードが国民の間にも大きく横たわるようになりました。

さて、こんな状態を続けてよいのでしょうか。漢字文明に代表されるように、この三国は地理的・歴史的・文化的に切っても切れない関係にあります。環境問題や少子高齢化など、国境を超えた深刻な課題にも英知を寄せ合わなければならない時です。欧米中心に進んできたグローバリズムのひずみにも、実は三国を中心にした東洋的知恵が活用できるのではないのでしょうか。

こんなときだからこそ「日中韓の絆」を再発見し、21世紀の世界における役割を見出す——。これからの担う若い世代とともに、そんな道を探りたいと思います。

2014年11月から開く2~3か月に1度の連続セミナー「だから“日中韓”——絆の再発見」は、そんな企画です。さまざまな伝統文化や食などの生活文化、スポーツ、若者をつなぐサブカルチャー、そして共通の悩みや互いの深刻な摩擦も、三国からゲストを迎えながら一緒に考えていきましょう。

また、両国の協力団体とも提携しつつ、時に大型シンポジウムや中韓での催しも企画したいと思います。皆さま、ふるってご参加ください。特に高校・大学生は大歓迎です。

若宮 啓文
石川 好

第2回

2015年1月16日(金) 18:00~20:00

会場: 国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

競い、高め合うライバル

岡田 武史 元サッカー日本代表監督、前中国スーパーリーグ杭州绿城監督
池田 誠剛 元韓国代表フィジカルコーチ
柳 想鐵 元韓国代表選手、Jリーガー



© 朝日新聞社

第3回

2015年3月16日(月) 18:00~20:00

会場: 国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

行き交うカルチャー

古市 雅子 北京大学外国語学院 副教授
北京大学「元火動漫社」所属学生 他



主催: (公財) 日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRA/ハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学
その他、協賛企業のご協力をいただいています。

詳細・お申し込み方法は裏面をご覧ください。

2015年1月16日(金) 18:00~20:00

競い、高め合うライバル



柳想鐵選手 © 朝日新聞社

第2回は、岡田武史元日本代表監督、池田誠剛元韓国代表コーチ、柳想鐵元韓国代表選手をお招きし、サッカーを通じてみる日中韓の関係についてお話を伺います。岡田氏は、2012年より2シーズンにわたり中国スーパーリーグ所属の杭州绿城で指揮を執り、現在も選手の育成に携わっています。一方池田氏は、2011年、2013年と韓国代表チームに招聘され、フィジカルコーチを務めました。また、2012年には岡田氏のもとで杭州绿城のコーチも担っています。柳氏は日韓両国リーグで選手として活躍され、韓国代表として世界のピッチも経験されています。三人それぞれの立場でのご経験談から、ライバルとして、またときには仲間として競い、高め合う三国の絆を再発見します。

岡田 武史

1956年大阪府生まれ。早稲田大学卒業後、当時の古河電気工業サッカー部(現ジェフユナイテッド市原・千葉)に入団。頭脳派のディフェンダーとして日本リーグで活躍し、日本代表として五輪予選、W杯予選など数々の代表選に出場。現役引退後は指導者として、二度のW杯を指揮し、2010年南ア大会ではチームを史上初のベスト16に導いた。2012年には、中国スーパーリーグ所属杭州绿城足球倶楽部の監督に就任。昨年11月に退任後は、サッカー界以外にも活躍の場を広げている。2014年11月、四国リーグ所属FC今治へのオーナー就任を発表。

池田 誠剛

1960年埼玉県生まれ。早稲田大学卒業後、古河電工サッカー部入団。91年に東日本JR古河サッカークラブのアシスタントコーチに就任。その後、ジェフユナイテッド市原のコーチを経て、94年のW杯ブラジル代表に同行。95年にはACミランで研修を受け、翌年以降横浜マリノス、Kリーグ釜山I'Park、浦和レッズでフィジカルコーチを務める。2011年、韓国五輪代表のフィジカルコーチに就任し、銅メダル獲得に貢献。2013年に中国・杭州绿城、2014年には韓国代表のフィジカルコーチを務めた。

柳 想鐵 (ユ・サン Chol)

1971年韓国生まれ。建国大学校卒業後、Kリーグ蔚山現代FCに入団。Jリーグでは、横浜F・マリノス(1999~2000年、2003~2004年)、柏レイソル(2001~2002年)で活躍した。1998年、2002年のW杯に出場し、両大会でゴールを決めている。また、2003年の東アジア選手権では大会MVPを獲得した。従来のポジションであるMFに加え、FWやDFもこなすユーティリティープレイヤーとして知られる。2006年の現役引退後、2011年から2012年までKリーグ大田シズンの監督を務めた。

2015年3月16日(月) 18:00~20:00

行き交うカルチャー

古市 雅子

北京大学外国語学院 副教授



元火動漫社 ORIGINAL FIRE

北京大学「元火動漫社」所属学生

他

第3回は、北京大学より古市雅子外国語学院副教授と学内だけで800人(総会員数約2,800人)が所属する「元火動漫社」というマンガ、アニメ、ゲームを指す「動漫」ファンサークルの学生をお招きして、中国の若者による日本のポップカルチャー受容の実情を学生たちのパフォーマンスをまじえてご紹介いただきます。また、日韓のポップカルチャーに造詣の深いゲストにもご登壇いただき、日中韓の新たなカルチャーの交流について理解を深めます。

【第2回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg02/

12月1日(月)より申込受付開始

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

入場無料

【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)

【会場】国際文化会館(東京都港区六本木5-11-16)



だから“日中韓”

絆の再発見

第4回

2015年6月5日(金) 17:00~20:00

会場:国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)



観る、語る!

朝鮮通信使のロマン

辛基秀制作『江戸時代の朝鮮通信使』上映

辛理華

(特活) 辛基秀と朝鮮通信使を研究
する青丘文化ホール 理事

パネル

崔洋一

映画監督

武久顕也

岡山県瀬戸内市長

石川好(モデレーター)

作家、元新日中友好21世紀委員会委員

講演

姜在彦

花園大学 元客員教授

王敏

法政大学 教授

総合司会

若宮啓文

(公財)日本国際交流センター

シニア・フェロー

日韓国交正常化50周年を迎える2015年6月、ユネスコの世界記憶遺産登録へ日韓共同申請の動きがみられる「朝鮮通信使」の今日的意義を探るセミナーを開催します。

朝鮮通信使は、室町時代を起源とし、朝鮮国王が足利・豊臣・徳川政権に対して国書や進物を届けるために派遣した外交使節団です。江戸時代には、学者や文人、医師などを含む300~500人規模の使節団が12回来日したという記録が残っています。使節団の来日は、文禄・慶長の役によって悪化した日韓関係を修復する役割を果たしただけでなく、当時の絵画や歌舞伎などの題材にも取り上げられ、文化面においても多大な影響を与えたといわれています。

今回のセミナーでは、1979年に朝鮮通信使研究の先駆者のひとりであった故・辛基秀氏が制作した朝鮮通信使の足跡を辿るドキュメンタリー映画『江戸時代の朝鮮通信使』を上映し、姜在彦氏に朝鮮史をふまえて、そして王敏氏には中国の視点を交えて、朝鮮通信使と日本に与えた影響について語っていただきます。また、韓国近代映画史の研究もされている映画監督の崔洋一氏と、使節団が寄港した牛窓町のある岡山県瀬戸内市の武久顕也市長を招き、多元的なパネルディスカッションを行います。



正徳度朝鮮通信使行列図巻(大阪歴史博物館:辛基秀コレクション)

詳細・お申し込み方法は裏面をご覧ください。

主催:(公財)日本国際交流センター(JCIE)

協力:日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財)MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学
その他、協賛企業のご協力をいただいています。

映画『江戸時代の朝鮮通信使』

(1979年公開、企画・制作：辛基秀、監督：滝沢林三、撮影：高岩仁)

江戸時代の朝鮮通信使の歴史的意義と華やかな文化交流の史実に映画史上初めてスポットを当て、対馬から大阪を経て江戸に至るまで、当時の記録や絵巻、ゆかりの地などを織り交ぜて朝鮮通信使の往復した足跡を辿った歴史ドキュメンタリー・フィルム。毎日映画コンクール2位入賞、文部省選定。

この作品には、制作責任者である辛基秀氏の「近代以前に平和な文化交流が行われていた時代があったことを楽しみながら再認識してほしい」という願いが込められています。今回は、ソウルに滞在中の次女の辛理華(しん りか)氏を招き、映画をご紹介いただきます。

フィルム原版所蔵：東京国立近代美術館フィルムセンター



文化庁朝鮮通信使人物図巻(大阪歴史博物館・辛基秀コレクション)

辛基秀(シン・ギス)



1931年京都市生まれ。神戸大学経営学部卒業。生涯にわたって朝鮮通信使を研究。1979年、映画『江戸時代の朝鮮通信使』を制作。主な著書に『朝鮮通信使の旅日記』等。朝鮮通信使の歴史普及の功により、1997年大阪市民表彰(文化功労)受賞。2002年永眠。2003年朝鮮通信使資料を大阪市へ寄贈した功により紺綬褒章受章。

姜在彦(カン・ジェオン) 花園大学 元客員教授



1926年韓国済州島生まれ。1950年に来日し、大阪商業大学(現大阪市立大学)を卒業、京都大学で文学博士号を取得。大阪市立大学講師、花園大学教授等を歴任。専門は朝鮮近代史・思想史。著書に『歴史物語 朝鮮半島』、『朝鮮近代史』等。映画『江戸時代の朝鮮通信使』の製作にも協力した。

王敏(ワン・ミン) 法政大学国際日本学研究所 教授



1954年中国河北省生まれ。1977年、大連外国語学院日本語学部を卒業し、2000年にお茶の水女子大学で人文科学博士号を取得。東京成徳大学教授を経て、法政大学教授を務める。専門は日中を中心とする比較文化及び文化関係研究等。著書に『禹王と日本人』、『鏡の国としての日本—互いの〈参照枠〉となる日中関係』等。

崔洋一(さいよういち) 映画監督



1949年長野県生まれ。大島渚監督や村川透監督などの助監督を経て、1983年に『十階のモスキート』で劇場映画監督デビュー。1996年には韓国・延世大学に留学し、韓国の近代映画史を研究しながら多くの韓国映画人と交流。代表作に『月はどっちに出ている』、『血と骨』等。

©朝日新聞社

武久 顕也(たけひさ あきなり) 岡山県瀬戸内市長



1968年岡山県瀬戸内市生まれ。1996年に岡山県邑久町議会議員に選出。2003年、イギリス・バーミンガム大学で公共経営管理学修士号取得。関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科准教授を務め、2009年に瀬戸内市長に就任。現在2期目。



Facebookができました!

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。ぜひご活用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。

<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【第4回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg04/

4月1日(水)より申込受付開始

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当:藤本)

入場無料

【会場】国際文化会館(東京都港区六本木5-11-16)



だから“日中韓”

絆の再発見

第5回

2015年**9月16日**(水) 17:00~20:00

会場:国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

広がる「茶の世界」を味わう

裏千家の茶の湯を広める中国の茶人

張 建立 (茶名:宗建)

「井戸茶碗」を番組にした韓国のプロデューサー

キム・ソクチャン

日本人初の「中国高級評茶師」

今野 純子

モデレーター:

石川 好 (作家、元新日中友好21世紀委員会委員)

司会:

若宮 啓文 (日本国際交流センター シニア・フェロー)

第5回は、中秋の名月を迎える9月に日中韓の茶文化をテーマに取り上げます。実演や試飲とともに、共通の茶葉から製法や喫茶の方法によって多様に広がる茶の世界にご案内します。

日本の茶道は、中国、朝鮮半島、さらにはヨーロッパの影響を受け、日本独自の文化として体系化されてきました。裏千家に学ばれた張建立氏には、日中の喫茶風習の比較や茶文化からみえる日本の文化の特色をお話いただきます。韓国のキム・ソクチャン氏には、朝鮮半島では日常的な器として使用されているながら日本では高麗茶碗の最高峰とされた井戸茶碗について、ご自身が制作された番組「朝鮮のマクサバル(井戸茶碗)」の映像をまじえ歴史を紐解いていただきます。日本で中国茶のサロンを開いている今野純子氏には、中国茶の魅力を茶芸の実演とともにご紹介いただき、中国茶を通じた日中の交流体験を語っていただきます。

中国杭州郊外の茶畑



張 建立 (ちょう けんりゅう)

中国社会科学院 日本研究所文化研究室室長、教授

1970年中国内モンゴル生まれ。1993年内モンゴル大学日本語学部卒業。1996年南開大学日本研究院日本思想史修士課程修了、同年4月茶道研修のため来日。1999年裏千家学園茶道科卒業。2000年同学園研究科卒業後、今日庵より茶名「宗建」を授与される。2003年3月立命館大学日本史専攻博士課程修了、文学博士号取得。専門は日本伝統文化など。著書に『茶道と茶の湯』(淡交社、2004年)等。

キム・ソクチャン

MBC メディア事業本部副局長、仁川・高陽地域総局長

1990年高麗大学卒業後、韓国のテレビ局MBCに入社。プロデューサー、TV制作部長を経て、2010年から2013年にかけて日本支局長を務めた。今回ご紹介いただく「朝鮮のマクサバル(井戸茶碗)」は、1995年に韓国で放送され、韓国放送通信委員会の「今月のよいプログラム」を受賞した。



今野 純子 (このの じゅんこ)

中国&台湾茶教室—Tea Salon Xingfu主宰

大学卒業後、大手損保会社に入社。独学で中国語の勉強を習得し、日本の中国茶教室で中国茶を学び始める。2010年、「中国&台湾茶教室—Tea Salon Xingfu」として自宅サロンでの講座を開始。2012年、中国の国家資格である「中国高級茶芸師」の資格を取得。2014年には聞き茶師の最高峰「中国高級評茶師」に日本人で初めて合格。2015年4月より大学院史学科にて中国茶の歴史研究を開始している。



Facebook

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。ぜひご利用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。
<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【第5回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg05/

7月1日(水)より申込受付開始

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)



【会場】国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)



主催: (公財)日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学

協賛: 眞露株式会社 イマジニア株式会社 ジャパンライフ株式会社 東レ株式会社 SKルブリカンソツジャパン株式会社
ダイエイショッピング株式会社

だから“日中韓”

絆の再発見

第6回

2015年12月1日(火) 18:00~20:00

会場: 国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

時代を映すテレビドラマ

『ハケンの品格』プロデューサー
樫山 裕子

『職場の神』プロデューサー
ハム・ヨンファン

韓国コンテンツ産業のリサーチャー
キム・ヨンドク (韓国コンテンツ振興院 海外調査チーム長)

モデレーター:
石川 好 (作家、元新日中友好21世紀委員会委員)

司会:
若宮 啓文 (日本国際交流センター シニア・フェロー)

第6回は、日韓両国で放送されたドラマ作品をベースに各国の社会事情がそれぞれの作品にどのように反映されているのか、あるいはドラマに代表されるメディアコンテンツによる日中韓の交流など、ドラマという切り口から日中韓のつながりに迫っていきます。

2007年に日本テレビ系で放送されたドラマ『ハケンの品格』は、多数の資格を持つ「スーパー派遣社員」の女性主人公をめぐる人間関係や働き方・生き方をいきいきと描き、人気を博しました。この作品は、当時の小泉政権下で施行された労働者派遣法の規制緩和の時流を反映して制作されました。一方、韓国では同作品が『職場の神』として2013年にリメイクされ、近年の韓国社会における非正規職問題を取り上げたことで話題を呼びました。

今回は日韓両作品のプロデューサーが初めて顔を合わせ、それぞれの作品制作までの経緯や社会とテレビドラマの関係、さらには日韓両国の共通性や相違性を語っていただきます。また、韓国コンテンツ振興院のキム・ヨンドクさんには、日中韓各国でドラマ作品が相互にリメイクされている事例の紹介や三か国の今後のコラボレーションの可能性などを解説していただきます。



ドラマ「職場の神」ポスター

樫山 裕子 (はぜやま ひろこ)

ドラマ「ハケン」の品格」プロデューサー
(日本テレビ 制作局専門局長 統括プロデューサー)

1983年日本テレビ放送網株式会社入社。1994年にドラマ制作部に配属後、次々とヒット作をプロデュースする。

【主なプロデュース作品】

「ハケン」の品格 (2007年)
「金田一少年の事件簿」(1995～1997年、2001年、2005年、2013～2014年)
「銀狼怪奇ファイル」(1996年)
「きょうは会社休みます。」(2014年)

ハム・ヨンフン

ドラマ「職場の神」プロデューサー
(KBS (韓国放送公社) プロデューサー、ディレクター)

1997年KBS入社。ソン・ジュンギ、ソン・ヘギョ主演の最新作「太陽の末裔」が2016年2月より放送予定。

【主なプロデュース作品】

「職場の神」(2013年)
「やさしい男」(2012年)
「恋愛の発見」(2014年)
特別劇場 / T V 映画「雪道」(2015年)

キム・ヨンドク

韓国コンテンツ振興院 海外調査チーム長

1990年慶熙大学新聞放送学科卒業後、1993年から2000年にかけて上智大学に留学。同大学文学研究科新聞学専攻で博士号を取得。韓国放送映像産業振興院を経て、2009年に韓国コンテンツ振興院首席研究員に着任。2010年から4年間日本事務所所長を務めた。専門は大衆文化産業論、日本における韓流や韓国における日流、ドラマ制作システム及び産業等。著書に『メディア文化と相互イメージ形成—日中韓の新たな課題』(九州大学出版会、2014年、共著)など。



Facebook

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。
ぜひご利用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。
<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【第6回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg06/

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財) 日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)

入場無料

【会場】国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)



主催: (公財) 日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学

協賛: 眞露株式会社 イマジニア株式会社 ジャパンライフ株式会社 東レ株式会社 SKルブリカンソツジャパン株式会社
ダイエイショッピング株式会社

だから“日中韓”

絆の再発見

第7回

2016年3月10日(木) 18:00~20:00

会場:国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

聖徳太子の平和外交に学ぶ

中西進(なかにしすすむ)

モデレーター:

石川好(作家、元新日中友好21世紀委員会委員)

陶徳民(とうとくみん)

司会:

若宮啓文(日本国際交流センター シニア・フェロー)

604年、聖徳太子は日本で初めての成文法となる十七条の憲法を制定しました。これは、第一条冒頭の「和を以て尊しと為す」の文言に象徴されるとおり、和を尊重した国づくりの指針を示す平和憲法でした。それまでに繰り返した朝鮮出兵の教訓も踏まえたこの平和の規範は、当時の日本の外交態度にも表れました。中国には遣隋使を送りますが、隋に外交儀礼を非難されるとすぐに改善する柔軟性を持ち合わせていました。

しかし、聖徳太子の没後、663年には白村江(はくすきのえ/はくそんこう)の戦いが勃発し、倭国は唐・新羅に大敗を喫します。また、759年には恵美押勝(藤原仲麻呂)が再び新羅征討を企てたこともありました。

一方で、聖徳太子の目指した国づくりは、後の時代の日本の為政者たちに理想像として繰り返し参照されてきました。政治理念を歌で実現しよう

とした「万葉集」や「古今和歌集」、「新古今和歌集」といった歌集にもその影響が色濃く見受けられます。

今回は、万葉集研究をはじめとする碩学でいらっしゃる中西進先生と日中の思想史を専門とされる陶徳民先生をお迎えし、古代までさかのぼって日中韓の古くからの繋がりを再吟味し、聖徳太子の平和外交に学び、現代の日中韓関係を考えます。



中西進(なかにしすすむ)

1929年東京都生まれ。東京大学大学院修了。文学博士。文化功
労者。文化勲章受章。成城大学教授、アメリカ・プリンストン大学
客員教授、筑波大学教授、国際日本文化研究センター教授、トロ
ント大学客員教授。姫路文学館館長、大阪女子大学学長、帝塚山学
院理事長・学院長、京都市立芸術大学学長、池坊短期大学学長、
奈良県立万葉文化館館長を歴任。歌壇賞の選考委員も務め、94
年には歌会始の召人をつとめる。現在、高志の国文学館館長、京
都市中央図書館館長、同右京図書館館長、田辺聖子文学館館長、
堺市博物館館長、奈良県立万葉文化館名誉館長。全国大学国語
国文学会会長、日本ペンクラブ副会長。2011年より、中西進の「万
葉青春塾」に取り組んでいる(全国の高校を対象にした、万葉集
の出前授業)。

陶徳民(とうとくみん)

関西大学文学部総合人文学科 教授

1980年上海師範大学文学部史学卒業、中国・復旦大学にて文学
博士号取得。1990年、大阪大学博士課程文学研究科史学修了。思
想史を専門とし、現在の研究テーマは明治期漢学者と中国との関
係である。(財)孫中山記念会評議員、(財)渋沢栄一記念財団渋沢
国際儒教研究プロジェクトチーム代表も務めた。



Facebook

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。
ぜひご利用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。
<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【第7回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg07/

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

入場無料

【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)

【会場】国際文化会館(東京都港区六本木5-11-16)



主催: (公財)日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 韓国・東アジア財団 ソウル大学日本研究所 東西大学

協賛: 眞露株式会社 イマジニア株式会社 ジャパンライフ株式会社 東レ株式会社 SKルブリカンソウジャパン株式会社
ダイエイショッピング株式会社

だから“日中韓”

絆の再発見

第8回2016年**5月12日**(木) 18:00~20:00

会場:国際文化会館

アメリカと語る日中韓

ジェラルド・カーティス
コロンビア大学 名誉教授

朱建榮
東洋学園大学 人文学部教授

朴喆熙
ソウル大学国際大学院教授、日本研究所長

石川好
作家、元新日中友好21世紀委員会委員

モデレーター:
若宮啓文
日本国際交流センター シニア・フェロー

第8回セミナーは、日本政治外交、日米関係のエキスパートであるジェラルド・カーティス氏を中心に、日中韓の論客も招いてアメリカと日中韓の関係を掘り下げようと思います。

現在の日中韓の外交政策は、各国の米国との関係と深く結びついており、安全保障の問題だけでなく経済や金融の面でも4か国の思惑が複雑に交錯しています。日中韓という枠組みはアメリカにとってどういう意味をもつのか、日中韓はアメリカを意識しつつどんな道を歩むべきなのか——。核をめぐる北朝鮮の動向や、関心高まる米国大統領選の行方も踏まえながら、グローバルな視点で活発な討論を展開していただきます。



ジェラルド・カーティス

コロンビア大学 名誉教授

1940年ニューヨーク市生まれ。1962年ニューメキシコ大学社会科学科を卒業し、1964年にコロンビア大学政治学修士課程修了。1969年同博士号(Ph.D.)取得。コロンビア大学政治学教授、同大学東アジア研究所所長、東京大学、慶應義塾大学、早稲田大学などの客員教授を歴任。大平正芳記念賞、中日新聞特別功労賞、国際交流基金賞を受賞し、旭日重光章を授与された。『政治と秋刀魚―日本と暮らして45年』(日経BP、2008)、『永田町政治の興亡』(新潮社、2001)、『代議士の誕生』(サイマル出版会、1971)など日本政治外交、日米関係についての著書多数。



朱建栄 (シュ ケンエイ)

東洋学園大学 人文学部教授

1957年上海市生まれ。1982年華東師範大学外国語学部を卒業し、1984年に上海国際問題研究所附属大学院法学修士課程修了。1992年学習院大学にて政治学博士号取得。同年より東洋女子短期大学助教授を務め、1996年より現職。1986年総合研究開発機構(NIRA)、2002年米国ジョージ・ワシントン大学(GWU)、2007年英国ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)の客員研究員も務めた。『中国外交苦難と超克の100年』(PHP出版、2012)、『中国 第三の革命』(中央公論新社、2002)など東アジア国際関係、中国現代史についての著書多数。



朴 喆熙 (パク チョルヒ)

ソウル大学 国際大学院教授、日本研究所長

1963年生まれ。ソウル大学政治学科を卒業し、コロンビア大学で政治学博士号取得。1999年から2002年まで日本の政策研究大学院大学(GRIPS)助教授、2002年から2004年まで韓国で外交安保研究院助教授を経て現職。2005年第1回中曽根康弘賞受賞。著書に『代議士の作られ方』(文春新書、2000)、『自民党政権と戦後体制の変容』(ソウル大学出版文化院、2011)他多数。



Facebook

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。ぜひご活用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。
<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【第8回お申込み】

下記URLよりお申込みください。

www.jcie.or.jp/japan/gt/jck/reg08/

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。



【お問い合わせ】

(公財)日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)

【会場】国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)



主催: (公財)日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 ソウル大学日本研究所 東西大学

後援: 朝日新聞社 東亜日報(韓国)

協賛: 眞露株式会社 ジャパンライフ株式会社 東レ株式会社 SKLブリカンツジャパン株式会社 ダイエイショッピング株式会社

だから“日中韓”

絆の再発見

第9回

2017年2月21日(火) 18:00~20:00

会場:国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)

プロフェッショナルが拓く 日中韓の未来

中国で最も有名な日本人俳優

矢野 浩二

日本で活躍する韓国人ビジネスリーダー

盧 聖姫 (ノ・ソンヒ)

韓国と中国を伝統楽器で繋ぐ中国人演奏家

彭 麗穎 (ポン・リーイン)

モデレーター:

石川 好 (作家、元新日中友好21世紀委員会委員)

2014年より定期的に開催しておりました連続セミナー「だから“日中韓”——絆の再発見」が、最終回を迎えることとなりました。これまでのご支援誠にありがとうございました。

最終回となる第9回は、「プロフェッショナルが拓く日中韓の未来」と題し、「中国で活躍する日本人」、「日本で活躍する韓国人」、「韓国で活躍する中国人」をスピーカーに招きます。それぞれの国で活動するにあたって、困難をどのように突破したか、文化の違いを越えてどのように相互理解を深めたか、などのエピソードを語っていただきます。

プロフェッショナルとしてご活躍される3人だから再発見できた日中韓の絆をご紹介します。



矢野 浩二 俳優

1970年大阪府生まれ。2000年に中国の連続ドラマ「永遠の恋人(原題: 永恒恋人)」への出演をきっかけに、翌年中国へ渡り本格的な活動を開始。以後、テレビドラマ 32 本、映画 9 本をはじめ多数のメディアに出演し、中国での絶大な人気を確立。2011 年には人民日報主宰「2010 Awards of the year」の最優秀外国人俳優賞を日本人として初めて受賞。また、2015 年には日本と中国の相互理解の促進に貢献したとして、外務大臣表彰を受賞した。2016 年より日本での活動も本格化している。



盧 聖姫 (ノ・ソンヒ)

Sunny's Trading 代表理事、Sunny's Project / Sunny's Housing 副社長

韓国慶尚南道馬山市出身。ハワイ大学卒業。1992 年に沖縄へ移住後、Sunny's Housingに理事として就任。1993年貿易会社Sunny's Trading を設立し、代表理事に就任。2003 年に建設会社 Sunny's Project を設立後、長期滞在型コンドミニアム及びマリンスポーツ観光事業を手掛ける。2014 年、世界海外韓人貿易協会 (World OKTA) 東京支部の理事長に就任。現在 World OKTA 東京支部の会長、World OKTA 通商委員会第 6 分科会 (ホテル・旅行) 副委員長を務める。2014 年に大韓貿易投資振興公社 (KOTRA) 社長賞受賞。



彭 麗穎 (ポン・リーイン)

社団法人韓中芸術協会 理事長

中国山東省出身。4歳から中国の伝統楽器・箏を習い始める。2006年天津音楽学院民族音楽科卒業後、2007年にソウル大学国楽科修士課程に留学し、韓国の伝統楽器・伽耶琴(カヤグム)を金静子ソウル大学名誉教授に師事。中央大学大学院韓国音楽学科博士課程単位取得退学。2010年に韓中の文化芸術交流促進を目的とした社団法人韓中芸術協会を設立。韓国箏協会会長、韓中文化友好協会芸術委員などを務めるかたわら、韓国のメディアにも多数出演している。2010年、21世紀韓国音楽プロジェクトで受賞、東方青少年芸術コンクール全国古箏演奏で銀賞等。



Facebook

開催情報、セミナーの写真やレポートなどの情報をお届けします。
ぜひご活用ください。皆様からの「いいね!」をお待ちしております。
<http://www.facebook.com/JCIEJCK>



【お申込み】

下記URLよりお申込みください。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/63181611491576>

※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財) 日本国際交流センター

Tel: 03-3446-7781 (担当: 藤本)



【会場】国際文化会館 (東京都港区六本木5-11-16)



主催: (公財) 日本国際交流センター (JCIE)

協力: 日中韓三国協力事務局 (公財) 渋沢栄一記念財団 (財) MRAハウス 中国社会科学院日本研究所
北京大学日本文化研究所 ソウル大学日本研究所 東西大学

後援: 朝日新聞社 東亜日報(韓国)

協賛: 眞露株式会社 ジャパンライフ株式会社 東レ株式会社 SKLブリカンツジャパン株式会社 ダイエイショッピング株式会社